

第462号
2016年5月15日

(毎月15日発行)

1部20円(組合員の購読料は組合費に含む)

JR貨物労組

日本貨物鉄道労働組合

〒114-0013

東京都台東区東田端1・16

JR貨物田端信号場駅5F

☎NTT 03-3819-7071

J.R 054-2901~3

発行人 相澤 武志

編集人 藤田 尚輝

第32回定期全国大会の成功に向けて!

時: 2016年6月26日(日) 13時30分~27日(月) 12時
所: (静岡県) 熱海後楽園ホテル

第32回定期全国大会に向けて、今総括月間で職場からのこの一年の闘いの総括を行い、目前に控える闘争課題と組織課題を明確にし、JR貨物労組の更なる飛躍をかけてへ結集しよう!!

全国大会の課題

1. 目前に迫る参議院議員選挙を勝利し、暴走する安倍政権に断を下し、「ねじれ国会」をつくりだす実践を確認する。
1. 「平和・人権・民主主義」を守り、JR発足30年・国鉄改革の検証と次世代への提言を明らかにし、鉄道事業部門の黒字化を通過点に、組合員の雇用と生活を守る闘う方針を確立する。
1. 日常的な職場活動を基礎に、次世代への組織体制確立のために組合員の結集をはかる。

組合員の声「熊本地震を体験して」

秋山 総治(熊本分会)
4月14日2時26分頃(熊本震源地)のマグニチュード6・5の地震が発生しました。揺れ始めた時はゆっくりだったので、何が起ったか分かりません。でしたが、どんどん揺れの激しさが増してきたときには、危険を感じ家の窓から飛び出し、逃げようとする恐怖を感じました。また、4月16日の本震が発生したときには、危険を感じ家の窓から飛び降りた車に乗って離ればかりでした。車は走行してなかなか前に進まず、ふと隣の車を見たら助手席に乗った女性が涙を流して泣いていたのが印象に残っています。

今回の地震を体験して、恐怖も感じましたが、温かさを感じました。たくさんの援物資も送っていました。この御恩は一生忘れることができません。現在も余震が続いていることがあります。夜もゆっくり寝ることができないくらいです。一刻も早く熊本が復興できるように願っております。

「平成28年熊本地震」が発生し、組合員と家族、労連の仲間の直接的な人的被害はありませんでしたが、家屋などに被害が出ています。今も余震が続く中で必死に生活している仲間のため、組合員へ一口500円のカンパを要請します!

「平成28年熊本地震」発生!

一口500円のカンパの取り組み要請!

進 弘輝(佐賀地区分会)
私は14日朝6時半で地震を経験し、16日はサド乗務で列車に乗り込みました。肥後伊勢崎を通過した際激しい搖れを確認した後、変圧器表示灯・VCB表示灯が点灯しましたが、非常にフレキシブルを使用。パン降下停車後、指令に連絡しました。指令に連絡後、バッテリ降下、業務用携帯電話の入りの指揮をもらいました。その時は、前日も地

2016年夏季手当請求

「我々の努力の結果の還元を求めて、全職場から闘いをつくろう!!」

基準内賃金×

2.6万円+5万円!!

を要求する!!

要求提出日: 5月19日

回答指定日: 6月17日

技術者の帽子と 経営者の帽子

NASAの技術者は車体に不備を発見したから打ち上げ失敗を予期していました。もちろん、技術者たちは打ち上げ中止を求めたが、NASA上層部は聞き入れずに強行し、悲劇を起こしたのである。では、なぜ打ち上げを強行されたのでしょうか。それはこのチャレンジ1号には高校教師が乗り込んでいたからである。もちろん、技術者たちは打ち上げ中止を求めたが、NASA上層部は聞き入れずに強行し、悲劇を起こしたのである。では、なぜ打ち上げを強行されたのでしょうか。それはこのチャレンジ1号には高校

リスクが大きかったにも関わらず打ち上げを強行した事も知つておかなければなりません。NASAの技術者は車体に不備を発見したから打ち上げ失敗を予期していました。もちろん、技術者たちは打ち上げ中止を求めたが、NASA上層部は聞き入れずに強行し、悲劇を起こしたのである。では、なぜ打ち上げを強行されたのでしょうか。それはこのチャレンジ1号には高校教師が乗り込んでいたからである。もちろん、技術者たちは打ち上げ中止を求めたが、NASA上層部は聞き入れずに強行し、悲劇を起こしたのである。では、なぜ打ち上げを強行されたのでしょうか。それはこのチャレンジ1号には高校

マイ・ターミナル

1986年に起きたス

ペースシャトル・チャレン

ジ

ジ

だ

ら

う

な

う

か

れ

ば

な

い

最後に全国の仲間の方々からの激励ありがとうござります!まだまだと思います。

JR貨物は「鉄道事業部門の黒字化」を必ず目標としている。それは組合員の将来を考えた上で必要なのである。しかし、経営者の「メンツ」のための黒字化として、コスト削減と数字合わせが強行されるのであれば大きな事故を招きかねない。私たちは「技術者の帽子」を被る者として安全な技術継承を図りたいとした手法には警鐘を鳴らし続けなければならぬ。